

経済闘争の中から政治闘争の芽を！

「どのストライキのなかにも、社会革命の怪蛇(ヒドラ)がひそんでいる」というのは、争う余地のないことである。だが、どのストライキからでも、一足とびに革命へうつることができるかのようにいうのは、ばかっている。

第二七卷『きびしいが、必要な教訓』P55

『プラウダ』(タ刊) 第三五号、1918年2月25日

署名——レーニン

コメント 文脈の中でレーニンが言っている意味とは違うが、私の言いたいこと。

あらゆる経済事象を階級関係の中でときあかし、大衆の政治意識を啓発する必要がある。(啓蒙・組織の必要性)そのことをぬきに革命を言うのはバカげている。

改良と革命

第二インタナショナルの不面目な死をもたらした日和見主義を実際に打ちやぶり、ラムゼイ・マクドナルドでさえその接近をみとめざるをえなくなっている革命を実際にたすけるためには、つぎのことが必要である。

第一に、改良主義に対立する革命の見地から宣伝煽動全体をおこない、議会活動や、労働組合、協同組合その他の活動の一步ごとに、理論的にも実践的にも、系統的にこの対立を大衆に説明すること。どんなばあいにも、議会制度やブルジョア民主主義のすべての「自由」を利用するのをこばまないこと(例外である、特別のばあいをのぞいて)、改良をこばまず、それをもっぱらプロレタリアートの革命的階級闘争の副次的な成果と見なすこと、これがそうである。「ベルン」インタナショナルの諸党で、こういう要求をみたしているものは一つもない。改良と革命の差異を説明しながら宣伝煽動全体をおこなわなければならないということ、革命にそなえて党をも大衆をもたゆみなく教育しなければならないということさえ理解しているように見えるものは、一つもない。

第29卷『第三インタナショナルの任務について』P516

1919年7月14日

注) ラムゼイ・ジェームズ・マクドナルド(1866～1937年)——イギリス労働党の創立者で党首。1906年いらい下院議員。日和見主義者。第一次大戦中は平和主義者。1924年、イギリス最初の労働党内閣首相。1929—31年、首相に再任。1931—35年、保守党が指導的役割を演じた、いわゆる挙国一致内閣の首相となり、労働党から除名された。のち枢相。

第29卷 人名訳注 P619